

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	日常の中で理念を振り返る場がないので、朝の申し送り時等を使って日々目にする機会を作り共有、意識できるようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後も継続していきながら、より身近な存在となるよう関係作りを深めていく。立ち寄っていただくということがないので今後の課題として工夫していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	グループホームが特別扱いされることなく、地域住民としての役割を果たしていくことや地域貢献できる取り組みをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現状としては地域に出向いていき、地域の活動に積極的に参加することを主に取り組んできている。	○	地域とのつながり、地域にグループホームがある存在意義を見出せることはないかと話し合いを重ねている。まだ取り組みにまでは至っていないが、できることから見つけて実践していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果を職員全員で共有し、その中から課題を見い出しどうすれば改善できるのかを職員会議や日々の申し送り等で議論し、改善に向けて取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見を大事にし、いただいた意見や改善点等をサービスに還元できるようにしている。しかし地域の参加者がいないため積極的な意見がないのが現状である。	○	参加メンバーに関しては地域性もあり、なかなか厳しい状況ではある。各団体となるとなかなか参加はしていただかず、地域との交流の機会の場を使って意見等を吸い上げられるよう努めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との関係が強いとはいえない。運営推進会議も市は全く関わらない状況。担当課には電話や訪問にて不明点等相談はさせていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がなかなかない。	○	法人研修として人権問題について学ぶ機会はあるが、権利擁護関係については理解、活用ともできておらず、必要に応じて勉強会を開催し、学習を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し職員全員で理解を深め、意識を高めている。	○	定期的に振り返られるようにしたい。また自分たちが虐待につながるようなことをしていないか、見過ごされていないか職員同士が注意し合えるチームを目指す。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	そのように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で出てくるものは、出てきた都度に改善や変更することで意見や希望に添えるよう努めているが、意見や苦情、不満等そのことだけに対してきちんと傾聴する機会を設けていない。	○ 今年度は満足度等の意識調査をご入居者、ご家族、職員に実施する予定。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の会を年4回実施しており、きちんと報告できる機会となっている。また毎月末に封書にて1ヶ月のご様子や報告事項についてお伝えしている。その他としてはその都度やご面会時等に行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の会での意見交換の場やその他市町村や外部のアンケート等にご協力いただき、運営についての意見や不満を出していただいている。ご家族と使いやすい関係を構築していくことにより、実際意見を出していただいております、改善、反映している。	○ 今年度は満足度等の意識調査をご入居者、ご家族、職員に実施する予定。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設けてはいないが、職員会議や日々の申し送りの場等で意見や提案を聞き、反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務を組んだ後からのことは、どうしても勤務外に対応せざるを得なかったり、お断りする場合もある。	○ できる範囲で極力考慮して勤務調整し対応したい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1名の退職者があったが、ここ1年は定着してきており、利用者ご家族ともなじみの関係ができています。2名の新規採用があったが、ベテラン職員が新人職員をフォローできており、利用者へしわ寄せがないよう努めている。	○ ご入居者にとって変化しない環境が維持できることが認知症ケアにもつながるので、職員が働きやすく魅力ある職場づくりを目指していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年度は人員不足もあり、十分な外部への研修が行えなかった。現場での実践を通して、問題解決のための提案を出してもらい、会議で検討の場を作り、能力向上につなげている。長所を生かした仕事作り、意見を傾聴し、職員の個性や能力を考慮した指導や支援を行っている。	○	外部研修を参加し報告会とともに、ミニ勉強会を開催し、現場で直面している問題点や課題等について学習する機会を作っていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	具体的には実施されていない。同法人のグループホーム事業所が近隣にあるので、行き来はしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃の申し送りの時間を活用し、些細なことでも話す場にしたたり、休憩時間の確保に努めている。また歓送迎会や新年会等職員同士が交流を持てる場作りに努めている。	○	管理者と職員が個別に面接する時間を作り、日頃の業務内容についてやその他不安や不満に思っていること、疑問点など話し合う場を設け、少しでもストレス軽減や意欲の向上につなげられるよう取り組んでいきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	今年度は個々人で目標設定を作り、課題分析や進行度合い等を把握しながら、目標達成に向けて協同していくよう取り組んでいく。	○	個々の職員が納得のいく仕事作りができるようサポートしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人だけでなく、ご家族やこれまで利用されていたサービス事業者からも情報収集するとともに、日々の関わりの中でご本人自身を知るよう努めている。またご入居時は特に不安や不穏になりやすいので気持ちを受け止め、傾聴するように心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	とにかくご家族の話をよく聞き、何に困っているのか、何を求めておられるのかを理解し、できるだけそれに添えるよう働きかける。またご入居当初は不安も多いので、蜜に連絡し状況報告とともに申し出等をお聞きし、解決するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話や見学での相談はあるが、ご本人やご家族の現状に応じたサービスを伝えたり、情報提供したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前にできるだけご本人にも見学に来てもらい、雰囲気を感じてもらおうとしている。また据え置き家具は一切なく、ご自宅で使っておられたものを持ち込んでいただき、できるだけご自宅に近い環境となるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員がその意識を持ち、実践しています。家事や畑仕事、その他その方の得意なことなどから、お知恵をいただく場面を作ったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会等で職員から話をする機会を持ち、一方通行にならないようお互いに知り合い、情報交換ができています。また各行事にご家族にも参加していただき、職員との交流を持ち、お互いに共有し合うことで、信頼関係を築いている。	○	できるだけご家族を巻き込んで、ご入居者にとってよりよい生活につなげられるよう関係作りを深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれのご家族の事情を考慮しながら、ご家族、ご入居者共に良い時間を過ごしていただけるよう、さりげなくサポートしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流があった方へ手紙を出したり、季刊誌を郵送したり等で関係が継続できるよう取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居者同士の関わりの中で職員は橋渡しや間に入りフォローしたりして関係構築できるよう支援している。またご入居者同士がなじみの関係となられ、会話が弾んだり、慰め合ったり職員が介入することなく自然にされている。職員が間に入っても狭い空間で他人同士、うまくいかない部分もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必要に応じてそのように対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族から希望や意向、またこれまでどのように生きてこられたにか等を聞き取りしたり、考察しながらその方にあった、その方らしい生活が営めるよう支援している。またアセスメントにおいても思いや意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、ご家族やこれまで利用していたサービス事業者からも情報収集し、全体像の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	顔色、表情、仕草、言動、体調不良、コミュニケーションの内容等を観察、記録することにより、現状を的確に客観的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケースカンファレンスまでにアンケートを実施しそれぞれの意見を集約する(会議に出席できない職員の見聞も聞き取る)実施可能かどうかを検討しながら、現状把握とその方に合った介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとにモニタリング、3ヶ月ごとに見直し、6ヶ月ごとにアセスメントを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の中にケアプランの実施に基づいた記録を落としこみ、プランの実施とその過程や結果等も記入し、ケア方法やプランの見直しに反映させている。	○	記録漏れや徹底できていない部分もあるので、全職員が共通した意識を持つてできるようにしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型共同生活介護以外のサービス機能は付属していないので、具体的にどのようなことを指すのか不明である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	そのように努めている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じて、情報交換をしたりしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれご入居者によって違い、月1回は往診や通院にて継続的な医療を受診している。往診していただいている医師には緊急時にも連絡体制をとっていただいているので心強い。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	○	ご入居者がご自分で意思表示の可能な時に、終末をどう迎えたいか聞き取りを行っていき、お一人お一人のケースとして終末ケアが可能なかどうか検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	○	今後に向けて整備していきたい。また終末ケアにについて職員自身も不安があるので、学習を深めていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	そのように努めている。個人情報に関してはご家族に同意書を得ていると同時に実習生等外部の方には守秘義務についての誓約書を作成していただいている。	○	言葉かけは本当に難しい。抑圧的や指示的にならないよう注意はしているが、こちらがそのつもりでなくても、ご本人にとって違うこともあるので、職員同士がお互いに注意できる関係づくりを図っていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択できるような場面作りや必ずご本人にお伺いしてから行っていることと、その方が理解できるような言葉やジェスチャーなどを使って、ご本人が理解できるような働きかけにより自己決定できるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にし、その方の気持ちや意向に沿って過ごせるよう努めている。また予定等は特に作らず、その日の状況や希望に応じて過ごしていただいている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれに関してはご本人の希望に沿って実施している。散髪はご家族にお願いしており、ご家族との外出の機会にさせていただいている。これまでの行きつけの店やご本人やご家族の希望したところに行っておられる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好きな献立をお聞きしたり、季節の料理や畑の野菜を取り入れたりしている。また調理から後片付けまでご入居者のお手伝いがあるところ成り立っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	実施できていない。ご家族面会時等にご本人の好きなおやつを持ってこれ個別に食べられることがある。たばこに関しては地域との関係上、ご入居者の喫煙者はお断りしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中はオムツを使用せず、行動や水分量等を考慮しながら個々人の排泄パターンを把握し、誘導している。夜間においても個々に合ったオムツを使用するとともに、安眠を妨げないようにそれぞれの排泄パターンに沿って誘導し、トイレでの排泄を促している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は毎日設けている。できるだけご本人の希望に沿う時間帯や回数に入浴ができるよう努めている。衣類の準備から浴後のケアまで担当の職員がマンツーマンで行い、ゆっくりとご本人のペースで入浴できるよう心掛けている。またその際に昔の思い出や普段の思い出など傾聴する時間にもしている。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体力状況、意向に応じて居室や共有スペース(和室)での休息を促している。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方ができるもの、得意とするもの、楽しくされるものをお願いし、必ず感謝の意を表している。またこれまでの趣味活動等もできるように場面作りをしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物へ出かけたりして、ご自分の物を購入する際は選んでいただき、可能な範囲で支払いもさせていただいている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候などに配慮して、日課となっている方や気分転換になっている方などその方に応じた外出ができるよう努めている。散歩や買物、地域行事の参加など。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年は人員不足により個別外出の機会は作れなかった。しかし季節ごとに四季を感じられる場所等には出掛けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	そのように対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来ていただけるよう伝えている。しかし個人情報保護法によりグループホームにおられることを公にはできないので、ご家族の了承をいただける範囲で馴染みの方のと訪問について支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し職員全員で理解を深め、意識を高めている。実際身体拘束に当てはまる対象となる行為は行っていない。	○	高齢者虐待防止法とともに定期的に学習を深める機会を設け、継続して取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠についてはご家族に同意書を得ている。同意を得ているからといって施錠し続けるのではなく、鍵をかけなくてもよい時間を作ったり、出たいと言われる時に出ていける体制に努めている。	○	施錠していることが当たり前にならないよう意識付けが必要であり、ご入居者が閉鎖的に感じないように援助していかなければならない。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に行っているが、日中職員は2人体制であり、散歩や買物等に一人が出ると、もう一人の職員が電話や来客者の対応、ご入居者へのケアや家事等しながらの見守りや安全確認をしなければならぬので、すべて行き届いているわけではない。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物や洗剤、消毒液等は定位置にて保管している、また洗剤等の「止」のキャップがあるものは使用時以外は「止」に合わせている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	居室のベッド等をつたって歩けるよう配置転換している。また滑り止め防止のカーペットやスリッパ等危険予測とともに事故防止に努めている。火災に関しては年2回防災訓練を実施している。行方不明に関してはマニュアルを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、それに基づいて対応するよう周知徹底している。	○	いざという時には弱い部分であり、勉強会等を通して学習を深めるともに対応方法や訓練も行っていきたい。また応急手当普及講習も実施できればと考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回実施している。平成20年度で1回は近隣住民にも参加を呼びかけて一緒に訓練を行っている。	○	今後も継続して地域に働きかけていき協力体制をとれるよう取り組んでいく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の会等でリスクについての理解、そのためにどんなケアが必要なのかまた家族として何を希望しているのか等共に考えていくよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	お一人お一人の体調管理に努め、日頃の状態を把握している。その他ちょっとした変化も見逃さないよう申し送りや記録に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の効能等を調べてファイルしており、不明な点についてはそれぞれのかかりつけ医に相談するようにしている。また医師の指示通り処方であること、間違いなくセットしてあるかを複数の職員で重複して確認し、服薬介助を行い、観察、記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の体質や嗜好品等を考慮した飲食物の提供により水分補給に努めている。また運動や服薬による調整、食物繊維の多い食品を摂っていただくなどして、便秘予防に取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は実施できていない。起床時と就寝時のみ行っている。義歯の方には洗剤の使用、残歯がある方や自歯の方に磨き残しがないように見守り、声かけにより確認している。	○	定期的な歯科受診を推進し、口腔内の清潔保持に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算はしていないが、栄養バランスが整うよう心掛けて献立を立てている。またその方に合った食事量と食事や水分量が少ないと感じた時は記録し、一日を通じて確保できるよう、嗜好品の提供等にて不足分を補給できるよう努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体のマニュアルがあり、統一した対応を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味期限の確認や開封したものには日付を記入し、できるだけ早く消費できるようにしている。生ものは毎日、乾物等在庫品に関しては定期的に点検している。調理前の手洗い消毒、またまな板や包丁は毎日熱湯消毒している。食中毒予防についてのマニュアルを台所に掲示している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関のアコーディオン扉が閉まっていると重たい印象があるが、そこから見えるところに洗濯物を干していたり、花を植えたりして、家庭的な明るい雰囲気作りはしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所が同じ空間にあり、食材を切る音や匂いなど食への刺激をもたらしている。また季節の飾りつけを行うことで四季を感じてもらえるようにしている。その他ご入居者の作品を掲示したり、庭で咲いた花を生けたりすることで、五感へ働きかけるような工夫に努めている。リビングの窓がすりガラスであり、明るさに欠けることや外の景色が見えないことが残念。	○	日中の大半をリビングで過ごされるため、居心地のよい場所となるよう、今後もよりよい空間作りを目指していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード的に限界があり、共用空間を思い思いに過ごしていただくところまでには至っていない。どうしても定位置に座られることがほとんどである。	○	環境整備しながらできる範囲で工夫し、少しでもご入居者にとって安らげる空間作りができるよう今後も検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅でご使っておられたなじみの家具を持ち込んでいただいたり、ご家族の写真を貼ったりして、それぞれの特徴が出ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏期や冬期は特に注意し、外気温との差がないよう冷暖房の調整をしている。日中換気できない時は夜間に行っている。また気になる匂いがあるところには消臭剤を置くなどして、それぞれの状況に応じて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な範囲で必要に応じて手すりをつけている。しかしリビングは空間的にも手すりをつけることが困難であり、また手すりの代用となるものがない。そのため歩行不安定な方に関しては押し車を使用させていただいている。	○	民家改修型ということでハード面においては厳しいところが多々ある。しかし今あるものを活かしながら、また必要に応じて修繕や新たに設置するなど、状況を見極めながら対応していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること、できないことを見極めながら、必要以上に手を出さず、自立支援を行う。またご入居者それぞれの得意とする部分において役割を発揮できるよう場面作り(主役になれること、自信を持ってされること)をしたり、失敗体験をされないよう配慮している。	○	アセスメントの実施による状態を把握し、その時その時の状態を見極め、それに合った対応ができるよう、職員個々の能力を高めていかなければならない。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑やプランター、水まきができる用具やほうき等を置いたりして、活動を促進できるようにしている、またベンチの設置にて日向ぼっこや散歩後にちょっと一息するなど楽しめる場所にもなっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
		○	③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

6名という他グループホームよりも少ない人数であるので、よりきめ細やかにをモットーに健康面や身体面、精神面、日常生活面等において注意を払い、いつもと違う変化や新たな発見などの気づきを大事にしながらお一人お一人に合わせたケアを実践しています。ハード的には狭い空間であり、お互いに密着度も高く、また逃げ場もあまりないため、ストレスを感じやすいし、トラブルも起こりやすいことは否めません。他人同士の共同生活であり、合う合わないがあっても当然であり、穏便に済ますのではなく、ある程度は吐き出してもらうことも必要だと思っています。ご入居者の皆様が思っておられることは「ここは家ではない」ということ。しかし一緒に暮らす者同士として、笑いあい、支えあい、慰めあい、時には喧嘩される姿を見ると、小さい集団であり、なじみの関係ができていからこそだと実感しています。職員も寄り添い、毎日を共に過ごしている、そこに同じ顔があることで安心や信頼が生まれてくるんだと思います。民家改修型であり「家」に近い環境を意識しながら、和室でごろ寝をしたり、縁側で日向ぼっこをしたり、畑で野菜をご入居者と一緒で丹精込め育てて味わっています。職員もそれぞれの個性を活かしながら、得意な分野で能力を発揮していただき、楽しめる仕事づくりを心掛けています。またチームワークの良さが強みであり、いろいろな意見を出し合いながらまずはやってみようと試行錯誤しながら実践しています。また地域に密着していることが自グループホームの強みであり魅力です。地域と関わらずにはいられない環境だからこそ、地域とのつながりを大切に、地域に何か貢献できないかと模索しながら事業運営に取り組んでいます。